



暮らしの中の人工衛星

Text by 的川泰宣

私が育った数十年前に、世界の人々の思いを宇宙へと駆り立てたのは、冒険と好奇心でした。この二つは、現在でも世界の人たちの心を宇宙に向かわせる最も強い動機になっていると思います。今では、地球上の人々の毎日の生活をしっかりと守り、元気づけ、便利にしていく宇宙活動を、もっとも大切にしていかなければなりません。

天気予報、テレビ中継、国際電話、カーナビなど、私たちの日々の暮らしには、人工衛星の技術が深く入り込んでいることを知っていますか。いちいち「宇宙開発の成果だ」などと意識しなくても、いつの間にか私たちは宇宙を利用しているのです。そのような恩恵こそ、現代の私たちの生活が宇宙と切り離せないことの確かな証拠です。

加えて、地球の生き物の未来が危ないという事は、今では小学生にとっても常識なのです。生き物の運命は、どうやら私たち自身の双肩にかかっているとしたら、私たちは、人工衛星等が提供してくれる宇宙からしか捉えられない地球環境の生きた姿を、しっかりと新鮮な気持ちで見つめてみたいものです。

その生活と宇宙との関わり合いに、日本の文化がユニークな貢献をすることを期待しています。例えば、日本の国土は3分の2が森林です。縄文の昔から森を守り、森とともに生きてきた日本人の自然に対する感じ方・考え方を、うんと大切にしながら、地球を住みやすくする取り組みに生かせたら、……などと考えています。

的川泰宣…プロフィール

JAXA執行役。工学博士。横浜こども科学館理事。宇宙や科学を通した生命・いのちを尊ぶ人間育成をテーマに、様々な分野で精力的に発言する“宇宙博士”。



MESSAGE

宇宙飛行士からのメッセージ

from Astronaut

MESSAGE

宇宙飛行士からのメッセージ

from Astronaut

こんにちは、毛利衛です。
 ある日人工衛星がなくなったらどうなるか考えたことがありますか？
 海外からのTV中継が見られなくなります。
 まともな天気予報もできなくなります。
 カーナビだって使えません。
 ……私たちのあたりまえな便利な生活ができなくなってしまいます。
 それよりもっと大変、生きるのに危険なことになりそうです。

この「SATELLITE★cafe」は、JAXAで人工衛星を担当している熱意ある若者たちが企画したものです。
 みんなに地球のこれからを考えるきっかけを与えたい。
 そういう冊子です。
 編集担当の森さん、期待していますよ。

毛利衛



毛利宇宙飛行士

編集担当 森

毛利衛…プロフィール

1992年9月、スペースシャトル(STS-47)に日本人科学者として初めて搭乗。2000年2月、スペースシャトル(STS-99)に搭乗、地球科学ミッションにあたる。同年10月、日本科学未来館初代館長に就任。現在、最先端科学技術を社会に伝える場作りおよび将来の科学技術を担う人材育成に取り組んでいる。またJAXA宇宙飛行士として後輩宇宙飛行士への助言を行う一方、さらなる宇宙飛行へ向けて訓練中。